Ｈ３０年度の学校教育目標の検討（知）

2018.1.18 教務部

本校の児童の実態

◎たいへん素直でよく話を聞き、指導内容を十分に理解することができる児童が多い。

◎フリートークを好む児童が多く、話題に対して言葉をつないで話し合うことができる児童が増えている。

▲自ら課題を選んで調べたり、調べたことを発表したりする学習に対して、あまり意欲的であるとは言えない。

▲フリートークは好きであるが、授業の中で言葉をつないで話し合い、学習内容を深めるまでには至っていない。

▲集団での学習に参加することが難しい児童が増えている。

新学習指導要領から

・どの教科においても「主体的対話的で深い学び」が求められており、そのような力を育てていくために教師はどのような研修を積んでいくべきかが問われている。

平成３０年度の目標について

知・・・「進んで学び、人と学ぶ子ども」

「進んで」・・・主体的に取り組む。自ら考え判断する。

「人と」・・・・社会の人に、地域の人に、友達に、自分から関わろうとする。友達と話し合いながら学びを深める。

第４回学校運営協議会資料　～良城小学校　学校教育目標について～

H30.1.26

生徒指導部

学校教育目標(案)

ふるさと吉敷を愛し、　知

徳「あたたかい言葉で支え合い(ながら)」

体　　子どもの育成

学校教育目標設定の理由

１　チャレンジ目標　良城小ビレッジ「場を清め(美)　礼を正し　時を守る」

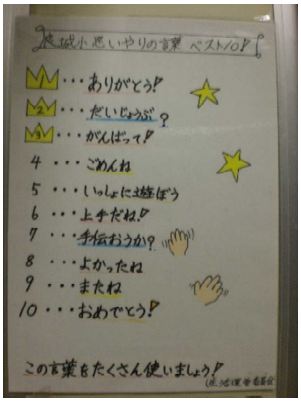
～１つの徹底　『明るいあいさつ』～

平成２８年度から、生徒指導重点取組事項として、「自分から先にあいさつしよう」(声の大きさ０，１，２，３)を設定し、明るいあいさつの定着を図っている。平成29年度も昨年度の実践を踏まえ、児童の実態を把握しながら、２学期からは「地域の人に進んであいさつしよう」、３学期からは「地域の人に３の声であいさつしよう」と、目標を明確化していった。徐々にではあるが、登下校中だけでなく、教室内でも笑顔で自然にあいさつする姿が見られるようになってきた。あいさつを通して子ども同士、教師、地域の人々とつながりを深めることができ、いつも見守られているという心の安心につながっている。

２　いじめ防止の取組

（１）「良城小思いやりの言葉　ベスト１０」

平成２７年度の代表委員会で、友達にかけてもらえるとうれしい思いやりの言葉について話し合った。生活・運営委員会が中心となり掲示物などを作成し、言葉の定着を図っていった。



（２）「良城小いじめ防止スローガン」

平成２８年度の代表委員会で、いじめ防止スローガンについて話し合った。学級開きや、学期はじめの時期に全校に呼びかけながら合言葉の定着を図った。また、３学期の始業式でまほうの言葉と思いやりの言葉を関連づけて考える時間をとり、これからもまほうの言葉を増やしていこうと呼びかけた。

「いっしょに遊ぼう」

笑顔広がる

まほうの言葉

生徒指導部では、「あいさつ」、「思いやりの言葉」を人間関係づくりの軸ととらえ、あたたかな人間関係の構築を図っていった。肯定的な他者評価によって自己有用感は育まれる。そして自己有用感の高まりは、自尊感情の高まりにつながると考える。今後さらに「あたたかい言葉」を土台とした集団づくりをめざしていきたい。そこで、「あたたかい言葉で支え合い」という目標を設定した。

学校教育目標の構造について

2018.1.24
保健部

ふるさと吉敷を愛し、
進んで学び　人と学び（知）
あたたかい言葉で支え合いながら（徳）
心身ともにたくましい　（体）
児童を地域とともに育成する。

【体（健康安全）の分野から】

- 学校保健安全委員会では、「みずから守る心と体」というテーマで、規則正しい生活習慣の確立を目指して様々な取組をしてきた。
- 子どもたちのやる気を支える土台となるのは、元気な体と心である。
- 心の強さ（精神的な面）があれば、何事にも踏ん張りがきき、頑張ろうと意欲的に取り組むことができる。
- 子どもたちは、健康についての知識はあるが、自分の体や生活に関心を持ち、改善を図ろうと自主的に働きかけようとしない傾向がある。（良城キッズすこやかカードから）

保健部会での検討をして

- メンタル面での弱さが、運動面にも現れている。体力的にもふんばりがきかない。
- 言われたことは素直に聞き入れ、まじめに取り組むのだが、自分で企画を考えることは苦手である。（教師の指示を待つ児童が多い。）
- 良城小の児童が、心身ともにたくましくあってほしい。
- もっと自分の体を大切にしてほしい。（自己管理）